

シェアサイクリング

1. はじめに

普段、みなさんが交通手段として使用するものには何があるだろうか。大学に来る際は、バス・電車などの公共機関の利用や徒歩といったものが考えられる。また、大学生のうちに免許を取る方もいるだろう。その中には、免許は持っても一人暮らしをしていて、運転するのは帰省した時だけ、という方も多くいるのではないだろうか。

そこで私達はシェアサイクルというものに注目してみることにした。

私たちが発表にあたって選んだ記事が
こころ結び型シェアサイクルサービス「PiPPA」スタート(ニュースリリース)
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000970.000002296.html>
というものである。

私達はこの記事をきっかけにして、シェアサイクルについて考えたい。

記事の概要

大和ハウスパーキング株式会社・株式会社オーシャンブルースマート・京阪電気鉄道株式会社の3社は、6月1日より京都市内で、こころ結び型シェアサイクルサービス「PiPPA（ピッパ）」を開始。「PiPPA」とは、GPS搭載のスマートキーを自転車に取り付けることで、1台の自転車を複数人で共有するシェアサイクルサービス。利用者はスマートフォンで、貸出・返却場所となるシェアサイクルポートの検索、利用予約、決済まで一連の手続きができる。

公共機関が発達し、若い世代のマイカー離れが叫ばれる昨今、私達は自転車を活用するということを考えてみる。自転車ならば自動車と違って免許は必要ない。交通ルールをきちんと守り、誰でも利用することが可能である。それから、やはり私たち自身シェアサイクルについて詳しく知らない。うまく利用できるのであれば、さきにあげた交通手段以外のひとつとして是非利用していきたい。利用者の視点に立ってどのようなメリットがあり、デメリットがあるのか。この発表を通して理解していきたいと思う。

補足

シェアサイクル（別名：コミュニティサイクル）とは

レンタルサイクルは設置された1つのサイクルポートを中心に往復利用しなければならないのに対して、シェアサイクルは相互利用可能な複数のサイクルポート(シェアサイクル用の自転車駐輪場)が設置されており、街のなかで自転車を「借り」て、移動に使ったら最寄りのポートに「返す」というもの。

2. シェアサイクルのメリット

- ・自転車を所持しなくてもよくなる

自分で自転車を所持しなくても良い為、管理費がかからない上、シェアサイクルの料金はそこまで高いものではなく日々の交通の足として使いやすい。

- ・違法駐輪が少なくなる

最近駅付近などで多くの違法駐輪がみうけられ問題となっているが、このシェアリングサイクルは、ポート同士を行き来する乗り物であるので、指定のポートへと返さなければならず、それにより違法駐輪は、少しでも減っていく。

- ・出先で手軽に自転車を交通手段などで利用することができる。

出張先や、観光地など、自転車が使いたくても使えない場面はたくさんある。そんなときに役立つのが、シェアサイクルであり、利用登録なども手軽にできるので、使用しやすく電車やバスの代わりとして新しい交通手段になりつつある。

- ・震災時など、緊急の場合の移動手段として利用することができる。

先日起こった関西での大地震など、大きな災害が起こった時、電車、バスなどが止まった場合の交通手段として使うことができ、今回の地震では交通機関の混乱を受けてHELLO CYCLING がシェアサイクルを無償提供し、人々の足として使われた。

- ・環境にやさしい

徒歩や自転車などの交通手段で移動すると、排気ガスやCO2削減などの問題が解決される。

以上のメリットはこの後に挙げる政府のシェアサイクル実現目標に近いものである。

シェアサイクルによって、もっと身近なものになるので、サイクルスポーツに興味を持つ人も増えるかもしれない。

都市環境をよりよくすることや、健康寿命の増加については、新たな交通手段としてシェアサイクルが普及し、料金設定も手軽で簡単につかうことができ、普段電車で近い距離を移動する人たちや、普段運動しない人たちが自転車に乗るきっかけになる可能性が高くなるかもしれない。

いのである。

また、自転車事故の減少については、こういったシェアサイクルの利用により、自転車に乗る人が多くなり、一人一人の意識改善につながったり、盗難などの被害もそれにより減っていくと思う。これはあくまで利用者の立場からの意見である。

参考文献

<https://honote.macromill.com/report/20171031/>

<https://boxil.jp/mag/a3017/>

<http://suumo.jp/journal/2013/04/12/41402/>

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1806/18/news105.html>

3. シェアサイクルのデメリット

・利用したいときにステーションに自転車がない
利用したいと思ったときに近くのステーションに自転車がない場合がある。通勤通学などで利用する場合、予定通りに移動できない可能性がある。

・利用する度にお金がかかる
シェアサイクルでは基本的に利用時間に応じた料金がかかる。日常的に利用する場合、それだけの料金がかかってしまうので、自転車を購入して駐輪場代を支払ったほうが安い場合がある。

・ポートに自転車が埋まっていて、乗り捨てできない
乗り捨てたい場合にステーションのポートが埋まっていて、乗り捨てできない場合がある。こういう場合には空いているポートがある他のステーションを探す必要がある。

【参考資料】

<https://webdesign-trends.net/entry/3015#i-6>

<http://hi-linx.net/community-cycle/>

ここで、これらのデメリットを踏まえると、後に挙げる自転車活用推進計画を実現するために、すべての目標において充実したステーションと料金制度への補助が必要と思う。

4. 政府の対応

ここまでこころ結び型シェアサイクルサービス「PiPPA」をきっかけとし、シェアサイクリングのメリット・デメリットについて詳しく見てきた。大和ハウスだけでなく、先日イトーヨーカ堂・シナネンサイクル・「HELLO CYCLING」を運営する OpenStreet の3社が6月21日シェアサイクル事業で協業すると発表したり、大手フリマアプリで有名なメルカリがシェアサイクル事業「メルチャリ」を発表したりしている。さまざまな企業が自転車を活用した事業に注目しているということも明らかだ。

では、政府の対応はどうだろうか。

自転車活用推進計画を決定 シェアサイクルの推進盛り込む

<http://www.sankei.com/politics/news/180608/pl1806080020-n1.html>

記事の概要

環境負荷低減と健康増進などを目的とした自転車活用推進計画を閣議決定。

計画は以下4つの実現目標で構成。

- 1 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成
- 2 サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現
- 3 サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現
- 4 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

この記事からもわかるように、政府も支えとなって、自転車を活用していく将来に前向きだとわかる。シェアサイクルに関して言えば、シェアサイクルの普及促進のため、2016年度で全国852か所あるサイクルポート（シェアサイクル用の自転車駐輪場）を2020年度に1700か所まで倍増させる¹計画のようだ。

【参考文献】

<http://www.mlit.go.jp/common/001237890.pdf>

1. 参考 PDFp17 の目標 1 施策 3 より

https://about.mercari.com/press/news/article/20180622_fukuoka_merchari

www.itmedia.co.jp/news/articles/1806/21/news068.html

5. まとめ

私たちは、利用者の立場としてシェアサイクルを推進していくことに賛成だ。

きっかけとして挙げたところ結び型シェアサイクルサービス「PiPPA」は、“ここでしか体験できないシェアサイクル”を目指し、京都市内の地元企業と提携したサービスを展開予定としている。

例えば、記事にある提携企業の一つ水端（みずはな）では、自転車に乗りやすい着物の着方を提案し、着物を着て外出するイベント等で連携予定とある。

もし私たちが京都を訪れることになったとき、シェアサイクルを利用して実際に街の雰囲気味わうことも魅力の一つとなるし、こういった提携企業のサービスを利用することは良い思い出にもつながるのではないだろうか。この取り組みが海外の観光客へも魅力に感じるものだとすれば、交通手段の分散になり、交通渋滞の緩和にもつながっていくだろう。

また、海外の一例としては、ロンドンのバークレイズ・サイクルハイヤーというものがあり、日本よりもポートが多く、300m-500m おきに設置され、700 か所以上のポートが既にある。

だから、日本でもこういったサービスが進むだろう。利用者の立場からすると、シェアサイクルが広く普及していくと、デメリットよりメリットの方が大きいだろう。

政府も推進計画を出したこともあって、一層の認知拡大が予想されることから、私たちはシェアサイクルがより身近なものになっていくことに期待している。

【参考文献】

<http://apsara-laxmi.com/rental-cycle>